

令和4年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和4年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和5年3月7日(火) 午前10時から午前11時40分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室
4	委員出席者	笹本委員、森本委員、宇田川委員、伊藤委員、金井委員、城戸委員、古川委員 (欠席者：野口委員、百瀬委員)
5	事務局出席者	山下文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館 原館長、豊科近代美術館 清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館 中田館長、穂高陶芸会館 小倉 館長、高橋節郎記念美術館 宮澤館長、貞享義民記念館 寺島館長、臼井吉見文 学館 平沢館長、博物館担当 逸見係長、幅主査、文化振興担当 三澤係長、塩 原主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人
8	会議概要作成年月日	令和5年3月20日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 (文化課長)

2 あいさつ

3 報告・協議

(1) 他館との連携及び地域と連携した取り組みについて (資料2)

会 長 今後私たちにとって一番大事なものは博物館がどのように他館と連携していくか、にある。これまでも各年度、非常に熱心に取り組んでいただいているが、さらに前に進むためには、令和5年度の計画案の前に、他館との関係をもう一度確認したい。

・各館から報告

■豊科郷土博物館

市内のみならず、県内外の主な博物館と連携をとっている。企画展の資料借用先は大町山岳博物館、小谷村教育委員会、長野県立歴史館、松本市博物館、大町市文化財センターなどである。講師は松本市考古博物館、長野市埋蔵文化財センターなどからも呼び、市内だけで完結せず、広範囲で連携を図っている。刊行物及び情報交換も行っている。昨今、紀要の発刊は非常に少なくなっている。紀要を毎年出すという形で県外を含めて情報交換をしていくことが重要である。

地域との連携は、講座、ギャラリートーク等を通して、まんべんなく各地区に話をしていくようにしている。呼ばれればどこへでも行くというスタンスでやっている。

■豊科近代美術館

当館は市内のみならず、県内外にも作品を貸出している。企画展示については、県内の美術館に依頼して、作品を借用し、展示している。特に常設の宮芳平と高田博厚の作品は、随時活用して移動展示等をしてきた。

地域との連携では、地域に展示ケースを貸し出し中核美術館としての役割を果

たしている。また、小中学校との連携は大事にしてきた。コロナ禍でも3校から300人ほどの児童生徒が来館し、作品鑑賞の授業等をした。コロナ後には充実した活動ができると考えている。豊科図書館、交流学习センターが近くにあるので、図書館では、企画展示にあわせた本の紹介をし、交流学习センターは、多目的交流ホールを展示室として活用している。

バラ園は独自の会計をとり、苗販売をしている。入場料無料のため、会計の範囲内で、財団からの補助で維持をしている。

当館の前庭は非常に広く、イベントを行いたいという希望がある。原状復帰を条件に貸し出しているが、今後もできる限り前向きに対応したい。

友の会は30年が経過し高齢化が進んできた。120名ほどの会員がいるが、全体をまとめる人材がいなくなってきた。いったん解散し新たに地域の皆さんが美術館活動に参加する形に見直していきたい。ほぼ70代以上であるので、新陳代謝させて色々な方が関われる体制にしていきたい。

■ 田淵行男記念館

令和4年度の土門拳展をきっかけに土門拳記念館との交流機会があった。来年度、酒田市で田淵行男の山岳写真の企画展をしたいとの申し出があり準備をしている。安曇野アートラインに参加し、出張美術館やアートライン展にも協力している。アートライン加盟館との定例会や研修をとおして情報交換を行っている。

■ 飯沼飛行士記念館

今年度、『豊科の宝』講座として飯沼飛行士を紹介した。積極的に講座を通して飯沼飛行士の紹介をしていきたい。今年度豊科の細萱地区と連携し、親子を対象とした記念館の見学会を実施した。市で発行している、小中学生向けの美術館・博物館パスポートも活用していきたい。

■ 安曇野高橋節郎記念美術館

安曇野アートラインに属し、資料の貸出、他館との情報交換を行い、出張美術館を通して作品を見ていただく機会を作っている。地域の季刊紙『安曇野文化』、文芸誌『安曇野文芸』などに学芸員が寄稿し美術館紹介に努めている。地域との連携は、学校や公民館、社協に出向き出前で沈金体験講座を実施している。地元の北穂高芸術展に協力し、毎年開催している。主屋や「南の蔵」は、地域住民の方に積極的に貸し出し、利活用していただいている。節郎氏が着彩したライアーがあるが、地域のライアー奏者や団体と連携し、コンサートを実施したほか、大学との連携で博物館実習生を受け入れた。

■ 貞享義民記念館

企画展示室で地元の方から資料を借用して展示している。松本市博物館や資料館からも資料を借りて展示した。絵本美術館 森のおうちお話の会による朗読会「おしゅん」は10回目を迎えた。この事業は終了するかもしれないが読み聞かせの会などに呼びかけて、継続したい。

地元の公民館、市の協働のまちづくりの事業に協力し、出張講演や出前講座を行っている。ほりで一ゆ〜にも展示をしている。企画展示室での企画を公募し、10グループに展示していただく予定である。

■ 臼井吉見文学館

令和3年から、当館30周年を記念して古田晃記念館（塩尻市図書館）の上條館長と連絡を取り合いながら、企画の準備を進めてきている。地域との連携は、市長公約の“『安曇野』の大河ドラマ化”が市民に浸透し、『安曇野』への注目が集まり、市内のみならず、松本市内で読書会が立ち上がっているため協力し

ている。

■穂高郷土資料館

埋蔵文化財の県宝がある館として縄文カードに取り上げられて、それを目的に多くの方が来ている。市内、松本市の講演会や公民館講座等に参加し協力している。常駐職員が不足しており限界はあるが、市内唯一の考古資料館としても今後も精一杯活動して参りたい。

・委員より意見

会 長 それぞれの組織の大きさは違うが、他館や地域との連携は非常に大事である。今後の活動をしていくためにプラスになるようなご意見をいただきたい。

友の会の高齢化の問題、地域連携のほかにも課題がたくさん見えてきた。高齢化の問題などはなかなか解決法がはつきりせず、すぐに答えが出るということではないが、ご意見いただきたい。

委 員 博物館法でもこうした連携について触れられており大変参考になった。

豊科近代美術館の友の会の高齢化の問題は、おそらく他館でも同様の問題を抱えておられると思うが、他館の事情をお伺いしたい。もう一つは、連携ということをより広くとらえると、人の動きが大切である。端的には学芸員の動き、つまり学芸員の旅費についての問題があると思う。学芸員に安定的な出張経費が与えられるか歳出の在り方にも関わってくる問題である。潤沢な出張旅費がつくとは考えられないだろうが、例えば財団として、これくらいは出張旅費に充ててよいのだ、という枠が考えられないだろうか。他の予算にどんどん切り取られていくとこうした連携にとって、足かせになると考えられる。そのあたりを工夫していただくと良いのではないか。

豊科郷土博物館 豊科郷土博物館の友の会は現在、目標会員数 300 人のうち現在 250 人である。会員には高齢の方も多く 2階に上るのが大変。エレベーターがないから、別の施設で活動しようかということがある。一方、5年前に子どもを対象に親子で参加する「宝探し部」を立ち上げた。定員 25 人いっぱいである。月一回、屋内外で活動をするのだが、子どもたちが関わることで 30 代など普段は関りの少ない大人が博物館に来て賑やかになる。30～40 代の層に館内を見てもらうと必ずまた来てもらえる。パスポートを持ってきてもらう。子どもが参加することによって館が良くなっていく。夏休みの草取りも参加してくれ、取り組みとしては成功している。

田淵行男記念館 確かに友の会の高齢化の問題はある。写真部会とむしの会があるが、写真部会は高齢の方が多い。むしの会は小学校 3 年生～中学生とその保護者を対象としており、毎年会員 30 組を募集し、若返りはできている。むしの会に関わるご家族は途中で抜けてしまうこともあり、メンバーの入れ替わりはあるが、活動を続けていくことで、会を維持できている。むしの会の会長を務めているが、今後は指導者の後継を育成していきたい。

高橋節郎記念美術館 友の会は当初 250 名いたが確かに高齢化の問題がある。しかし、協力体制はしっかりしており、イベントのお手伝いや大変な庭の手入れなどもやっていただき、ありがたく思っている。非常に協力的で、体制の整った団体であると思う。

白井吉見文学館 当館の友の会は、全国に 140 名ほど会員がいるが、地元の堀金の方が最も多い。新しい活動を立ち上げようとした時に、例えば補助金、助成金をもとに活動するためには新たに母体を作らなければならない。友の会はすでに団体であるので規約もある。市民の皆さんが新しい活動を始めようとした時に友の会を利活用するということできるのではないか。今までの読書会とはまた別の形で新たに活動ができると思っている。そうした方たちに向けて、こういった団体がある、とアナウンスしたら

どうか。

会 長 全体として見てみると、豊科郷土博物館の事例は非常に大事である。長野県立歴史館は市民向け古文書講座があるが年配の方向けである。若い人向けに作れないか考えている。いずれにしても、子どもたちを交えた方向に持っていく方策を練らなければならない。途中で変わっていくことがあっても良く、種を撒ける状況になっていることが大事である。もう一つ、友の会はボランティアという考え方は、市民が主人公であることを忘れてしまっている可能性がある。友の会はお手伝いだという考え方は避けたい。博物館は市民の税金で作っているのだから、市民が学びたいということであれば市民が学芸員になりうる。市民の学芸員が増えていく状況にならないければ、市民が置いてけぼりになってしまうのではないか。そういった意味で、私どもの地域の博物館は次の時代を考えお手伝い出来ることがあればと思っている。

地域連携が重要になる。長野県立歴史館も地域連携をしているからこそ、何かと豊科郷土博物館に協力いただけないか、と相談できる体制ができています。日常のお付き合いが出来ているからこそ結果としてより良い展示ができる。

学芸員が勉強できる体制が出来ているのか。時間もお金も保証しないであれこれやれというのはとても難しい。博物館法の改正は各博物館の仕事ばかりが増えていく内容である。人数も予算も増やされていない。仕事が増えていく中で、私たちはどうしていけば良いのか、考えて意見を述べて行く必要がある。博物館協議会はより良い運営ができるように応援する会である。

(2) 令和5年度 各館事業計画について（資料1）

会 長 資料1について協議する。委員の皆さんにご意見いただきたい。

事務局 来年度の計画について補足説明したい。平成27年度から博物館構想を推進してきたが、現実的にはどういった可能性があるか、建物、予算、新しい博物館を建てるのか、既存の建物を残すか否かを、現実的に即した形で再検討していく。

会 長 豊科郷土博物館は、エレベーターがない。職員は会計年度任用職員が多いという現状で、サービスが成り立つのだろうか。より博物館が良くなっていくように考えたい。

委 員 たくさんの美術館・博物館があり、周囲の人たちとともに、どう活用されていくべきか考え、知恵を出す方法があるのではないかと。故郷に戻ってきた際に、2つの友の会に入った。友の会の活動の中で、関わっている方達がどんなものに興味があるのか、アンケートをとっているか。それについて比率、統計が出ているのかをお伺いしたい。結果が分かっているとすれば、関心のあるテーマをもとにそれぞれの館では「〇〇でお客様が入っている」ということが言えるだろう。市民の興味が高いものは何なのか、どんな企画をしたら自分のこととして情報発信できるか、考えることができるのではないかと。学校の出前講座をする際、全生徒に年代別の人たちにとって、昔のことの良さに今の知恵に活かせるものがないか、という仕掛けを試してみた。具体的に日常生活の中で「うちのおばあちゃんがこんなことができるのか」と知る機会になる。高齢者も現役世代も、子どもとの関わりでリアルなテーマをやってみると良い。読み聞かせをした時に、昔のテーマを投げかけてみると、世代を超えて共通テーマがあると分かった。

会 長 各美術館・博物館は興味の対象としてどんなことが挙げられるのか、来館者に対するアンケートをとっているか、3点程、挙げていただきたい。

豊科郷土博物館 1階の常設展示、2階の企画展示とアンケートをとっている。特に、戦争展は反響を呼んだ。子どもたちのアンケートから出したものが話題になって、次に何を取り

	上げたいか検討し、動物を見たいという意見があったので、剥製を展示したいと考えている。
豊科近代美術館	企画展ごとにアンケートをとっている。館の方向性に対して厳しいご意見もあり、親身になって考えていただいている。友の会アンケートをとったが、回収率が30%である。部会ごとでいうと、絵画部は施設で絵が描けて、年に2回発表ができることが良いという意見があった。人気なものは、ひな人形の講座である。バラ園については、長年の趣味を生かしていただいていたが、ノウハウをつなげていくことが課題である。
田淵行男記念館	アンケートは実施している。田淵が36冊の本を出していることもあり、山岳写真、昆虫生態、細密画、雪形、カメラ作品などへの興味がわかっているほか、館の立地による雰囲気、湧水地があるので、場としても肯定的なご意見がある。
飯沼飛行士記念館	アンケートの満足度をは「とても良かった」が100%である。常設展を見る方に対して丁寧な説明をしていることが、高評価を受けている。
穂高陶芸会館	当館は展示よりも作陶を目的とした利用者が多い。小さい時に土に触れたという記憶、創作意欲が湧くなどの意見がある。作陶を目的にした友の会は100人ほど会員がいるが、人数を制限しているほど人気がある。
高橋節郎記念美術館	アンケートは常時行っている。作品については98%が良かったと回答している。作品の他に、主屋などの建物、環境が良いという方が多い。来館のきっかけは、インターネットで見たという人が圧倒的である。雑誌からという人もいる。クレームとしては、照明が暗い、作品のガラス面の反射が気になるというご意見があった。
貞享義民記念館	友の会はない。アンケートでは、貞享騒動に特化した館であるため、貞享騒動にもっと多くの方が馴染んでほしい、地元の歴史を勉強したい、当館で行っている活動をもっと広げてほしい、という意見が多い。リピーターの方は少ないが、松本市の義民塚を見てきた方などもおり、県外からも応援してくれている方がいる。
白井吉見文学館	当館に対するご意見としては、講演会の内容や、講師についての希望が多く寄せられる。
会 長	館の側は、アンケートの通りにはとてもできない。企画は、1～2年の計画でやっ ていかないといけないので、時代にあったもの、学芸員がどのようなものを企画 したいのが大事である。アンケート結果に答えていくのは難しい。その向こうをど のようにしてやっていくかを考えたい。
委 員	豊科郷土博物館の機織り講座は親子のみならず、ニーズはあるのでは。どうしたら 継続性のあるものになるか。できた作品を展示、発表する機会があっても良い。今 あるものでも十分工夫していくことはできるのではないか。
豊科郷土博物館	機織りは鐘の鳴る丘集会所にあり、5台しかない。指導者は友の会の会員である。 染めの体験もやっており、藍染などで手拭いや T シャツなど友の会がボランティ アでやっている。子ども向けの講座も友の会にやってもらっている状況。
会 長	鐘の鳴る丘集会所の2階は拝見したが、予算のない中で非常に良くやってくれて いる。
委 員	中高美術部展について、14回目ということであるが、生徒にとって自作が美術館 に展示されるというのは想像以上に得難い経験である。かつて市外の生徒も入れ たということだが、なぜ、市内の生徒限定にしたのか。
豊科近代美術館	部屋数が限られている。松本市に声をかけたこともあったが、各学校の出品点数が 限定されてしまうことになるので、市内の生徒対象という原点に戻った。コロナの 影響もあって、生徒自身の展示作業は行わず、職員だけで展示作業をした。この負 担も考えてのこと。
委 員	対話型鑑賞指導の継続とあるが、どのようなことをやっているのか。研究会に市民

	<p>は参加できないか。監視員をした経験があるが、展示室にいると質問されることが多くあった。「私は監視員だから・・・」という回答をしたくなかった。市民学芸員のような形を目指したいという思いもある。</p>
豊科近代美術館	<p>対話型の良さというのはどう感じたかが大事で、グループ内でやるのが本来は効果的。友の会の鑑賞会もあるが、解説を聞きたがるという傾向がある。</p>
会 長	<p>鑑賞の研究会に、一般市民が入れないか、市民も一緒になってできないか、検討していただきたい。</p>
委 員	<p>陶芸会館の客層の対象が若者に向いている。市民の多くは高齢者である。盆栽の植木鉢を作る、植木鉢だけのコンクール、植木としてのコンクールなどもできるのでは。高橋節郎記念美術館の、“そば猪口のコンクール”は面白い。継続するのは難しいだろうが、多くの人が集まる企画だろう。新市立博物館構想を再検討するということであるが、これまでの計画は御破算になったということか、それとも積極的なものなのか、消極的なものなのか。</p>
会 長	<p>以前に博物館を作るということで、われわれで博物館構想の報告書まで作ったのにも関わらず、現在建設には至っていない。 博物館を作っていくためには、若い芽を育てていくことが重要であるのだが、ここに対する力の入れ方がどうしても弱い。</p>
委 員	<p>それぞれの美術館・博物館が非常に頑張っていると感じる。広報誌に出た会計年度任用職員の募集欄に、学芸員があった。民俗、自然の学芸員が採用されることは、とてもありがたいと思うが、雇用、待遇の安定、身分が保障されなければならない。自然系の学芸員は特に望まれる。子どもたちの提案で動物展に取り組んでもらえるのは嬉しい。自然の豊かな安曇野で、自然の展示がぜひほしい。環境課で生物調査、展示、まとめ、記録をされているが、連携をとって展示し、市民が学べる機会があった方が良いのでは。レッドデータブックの改訂とも連携してはどうか。市民学芸員は、松本市、茅野市が市民研究員に継続的に取り組んでいる。自然史関係もある。資料に標本の種の同定、整理作業とあるが、誰がやっているのか。養成講座などを作るのはどうか。</p>
会 長	<p>会計年度任用の制度は、継続性のないものである。一年更新で専門性を持ってきちんとやっているとは言えない。これだけの仕事をこんな給料でやってもらっている、ということがある。一気に採らなくても、一人ずつでも採用して行って、一人でも多くの専属学芸員を望む。現状は非常に厳しく、これだけの仕事を会計年度任用職員に負ってもらっているという状態。新市立博物館構想では、しっかりした学芸を求めたい。</p>
委 員	<p>ここ最近では横のつながり、特に研修などはオンラインミーティングの研修が進んできた。ここにいながら東京の研修が受けられるのはメリットである。こうしたことを活用できたらと思う。子ども向け web ブックのパンフレットを拝見した。地元の学校と連携するのであれば、地図に学校の位置があっても良いのではないか。時期的に、防災のことが頭をかすめる。大町山岳博物館の事件は、穏やかな地域に強盗が入り重たいケースをもっていかれた。防犯も考えていかなければならない。</p>
会 長	<p>災害時にどう動けるかの問題はまだまだきちんと具体化していない。警備は入っているが、一般的に、資料は収集、保存、調査、研究、展示が主であるが、保存については極めて重要な課題である。</p>
委 員	<p>予算のことで伺いたい。令和4年度に比べて予算総額、人件費が減っているのはなぜか。館の10周年記念事業にも関わらず、謝礼がなし、学芸による作品の運搬となっている。作家への対価がないということが明記されているはきついのではないか。</p>

豊科近代美術館 令和4年度は日展があったために、何年かの計画の中で予算が大きく位置付けられていた。

高橋節郎記念美術館 企画展で収支をとると、作品を借用することにより基本はマイナスになる。収支をここであわせるのは難しい。収入にあった支出を入れる。有名な方ではないという趣旨の特別展であるので仕方なくそのようにしている。

委員 芸術家の労働環境が大変な状況になっている中で、こうしたところは非常に気になる。貞享義民記念館について、旅費の内訳が通勤費となっている。研修旅費は計上されていないということか。

事務局 会計年度任用職員には報酬、期末手当、通勤費をお支払いしているが、旅費に出張費を計上するためには、例えば文化庁などの研修は年度が明けてから募集されることになるので、予算に入れることは難しい。

会長 美術品を運ぶのに、美専車が使えないという状況である。展覧会は良い作品を集めて来ることに意義がある。会計年度任用職員だから、ということではなくて、学芸員を少しでも良い環境に置いて、いきいきと働いてもらいたい。博物館は今後どうするのか、旅費も含めて、学芸員の待遇は、ボランティアで成り立っていくのか、新市立博物館構想の見直しの中で検討した方がよい。しっかりした博物館を作るためにはきちんとした学芸員を置いてもらいたい。地域の人たちが誇りを持って生活するには、博物館・美術館がきちんとしていることが重要になる。ついては、地域がどうなっているのか、博物館・美術館がどのような役割を果たせるのか、ここできちんと議論していきたい。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。